

「平成28年度全国学力・学習状況調査及び岡山県学力・学習状況調査結果」について

1 調査の実施

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査日

平成28年4月19日（火）

(3) 本市の参加状況

○全国学力・学習状況踏査 <県：小学校16, 408人 中学校16, 613人>

|        | 参加学校数  | 参加人数        |
|--------|--------|-------------|
| 平成28年度 | 小学校14校 | 小学校6年生 410人 |
|        | 中学校7校  | 中学校3年生 513人 |

○岡山県学力・学習状況調査 <県：中学校16, 268人>

|        | 参加学校数 | 参加人数        |
|--------|-------|-------------|
| 平成28年度 | 中学校7校 | 中学校1年生 460人 |

2 本市の学力状況について

(1) 全国学力・学習状況踏査

数値は平均正答率（%）

|      | 小国A  | 小国B  | 小算A  | 小算B  | 小全体  | 中国A  | 中国B  | 中数A  | 中数B  | 中全体  |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 玉野市  | 72.0 | 56.0 | 76.6 | 46.8 | 62.9 | 77.2 | 65.7 | 64.3 | 44.3 | 62.9 |
| 岡山県  | 72.6 | 57.5 | 77.2 | 47.3 | 63.7 | 74.7 | 63.8 | 60.3 | 41.4 | 60.0 |
| 全国   | 72.9 | 57.8 | 77.6 | 47.2 | 63.9 | 75.6 | 66.5 | 62.2 | 44.1 | 62.1 |
| 県との差 | -0.6 | -1.5 | -0.6 | -0.5 | -0.8 | +2.5 | +1.9 | +4.0 | +2.9 | +2.9 |

○平成27年度の県平均との差

|      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 県との差 | -0.9 | -1.9 | -0.8 | +0.1 | -0.9 | +0.1 | +0.7 | -1.5 | -1.4 | -2.1 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|

- 小学校においては、全教科で県平均を下回ったが、昨年度から見ると、算数B以外は県平均との差が縮小した。
- 中学校においては、調査開始以降、初めて全教科で県平均を上回るとともに、国語A、数学A・Bにおいては全国平均を上回った。

課 題

- 理論的に自分の考えをまとめ、書いて表現し、説明する活動が苦手であること。
- 国語においては比較的長い文章を読み取り、わかったことや考えたことを条件に合わせて記述する問題が苦手であること。
- 小学校ではローマ字の無回答率が高く、第3学年で学習した後も、繰り返し読んだり書いたりする機会を確保する必要があること。
- 算数・数学においては、苦手傾向にあった図形問題で改善が見られるが、割合や単位量あたりについて苦手な傾向が続いていること。

(2) 岡山県学力・学習状況調査

数値は平均正答率 (%)

|        |      | 国 語  | 社 会  | 数 学  | 理 科  | 4 教科 |
|--------|------|------|------|------|------|------|
| 平成28年度 | 市    | 65.0 | 58.9 | 70.3 | 63.2 | 64.4 |
|        | 県    | 64.9 | 57.3 | 68.1 | 60.3 | 62.7 |
|        | 県との差 | +0.1 | +0.1 | +2.2 | +2.9 | +1.7 |
| 平成27年度 | 県との差 | +0.8 | -0.1 | +2.1 | +2.8 | +1.3 |

- 今年度は、すべての教科で県平均を上回っている。
- 正答数の分布は、県の状況とほぼ同じである。

3 児童生徒質問紙調査から見える本市の特徴（全国学力・学習状況調査より）

<小学校>

- ・読書が好きである、新聞を読んでいると答えている児童が、全国平均よりも高く、読書については10ポイント以上高い。家で学校の宿題をしている児童の割合も約90%と多い。
- ・平日1時間以上学習している児童は68%と全国平均を5ポイント上回っているが、休日勉強している時間が1時間以上の児童の割合は52%であり、全国平均より5ポイント少ない。
- ・平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている児童の割合が2割を超えており、全国平均よりも3ポイント以上高い。
- ・授業の中で分からないことがあったら、先生に尋ねると答えた児童が、全国平均より8ポイント高い。
- ・難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、自分によいところがあるという設問に肯定的に答えている児童が、全国・県に比べ、5ポイント低い。

- ・ノートに学習の目標やまとめを書いていたと肯定的に回答した児童が94.3%と全国平均より高いなど、目標や振り返りなどを教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が全体的にみて高い。
- ・原稿用紙2～3枚の長文を書くことや自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることに難しさを感じている児童が全国・県に比べて多い。

### <中学校>

- ・将来の夢や目標を持っていると答えている生徒は70%以上と多い。
- ・家で学校の宿題はしている生徒は91%と全国・県平均よりも多いが、復習をしている生徒は全国より9ポイント以上少ない。
- ・普段（月～金曜日）、学校の授業時間以外に1時間以上勉強をしている生徒は59%と、全国平均より9ポイント少ない。また、土曜、日曜日においても、家での学習が1時間より少ない、または全くしない生徒が約40%おり、全国平均より8ポイント以上多い。休みの日には、部活動に取り組む生徒が多く、それ以外には、テレビやビデオを見たり、ゲームをしている生徒が多い傾向が見られる。
- ・昨年度52.2%だった平日1時間以上携帯電話やスマートフォンを使用して通話やメール、インターネット等をしている生徒の割合が43%と、全国平均よりも約5ポイント下回り、改善の傾向が見られる。
- ・授業のはじめに目標が示されていた、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと回答した生徒が全国平均より10ポイント以上多い等、教員が意識すべき授業づくりの基本に関わる項目の肯定的な回答率が総じて全国平均より6～14ポイント高い。
- ・授業の中で生徒間で話し合う活動をよく行っていたと回答した生徒が全国平均より8ポイント、また、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと回答した生徒が全国平均より5ポイント以上高い。

### 課 題

- 宿題をしているにも関わらず家庭での学習時間が少なく、テレビやゲームをしている時間が多い傾向がある。また、平日に比べ、土日の学習時間が少ないことから、家庭学習の質や量、教員の点検の在り方、小中学校の連携した指導についての改善、家庭への啓発を図ること。
- 携帯電話やスマートフォンの所持率は全国に比べて低いですが、小学校では利用時間が全国平均よりも長くなっている。中学校は改善傾向が見られるが、適切な利用について、家庭と連携しながら適切な利用について働きかけること。
- 小中学校とも、授業の目標・まとめなどの授業づくりの基礎について児童生徒が行っていると回答していることから、教員の授業力の向上の取組は一定の成果を挙げていると考えられるため取組を継続するとともに、質を高めるよう働きかけること。